

デンタル・パノラマのデジタル化, そしてCT
各画像の撮影法と診断のポイントを整理し, 多数の症例とともに詳述!

日本歯科評論 増刊2013

画像撮影・診断の 新たな展開

デジタルエックス線・CTのたしかな画像を
得るための撮影法と診断のポイント

編著 **佐野 司** 昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座 教授

エックス線画像は診査・診断, 治療計画の立案など
歯科診療に不可欠なものです。近年, デジタル化
の拡がりや歯科用CBCTの登場・普及により, 撮影
環境や注意すべき読影のポイントなど, 従来と比べ
て大きな変化が起こっています。
それらの変化に適切に対応するため本増刊では,

- デンタル・パノラマのデジタル化によって何が
変わるのか(画像から得られる情報, 撮影の環境,
画像の保存法, 患者への説明など)
- 各装置の最新の知見と効果的な活用法
- 症例によるアナログ画像とデジタル画像, そし
て歯科用CBCTの診断のポイント(アナログで
診断しやすかった症例, デジタルで診断しやす
かった症例, CTで診断できた症例など)

について解説しています。明日からの臨床に
役立つ一冊として, ぜひご活用ください。



A4変判・156頁・オールカラー・定価6,090円(本体5,800円+税5%)